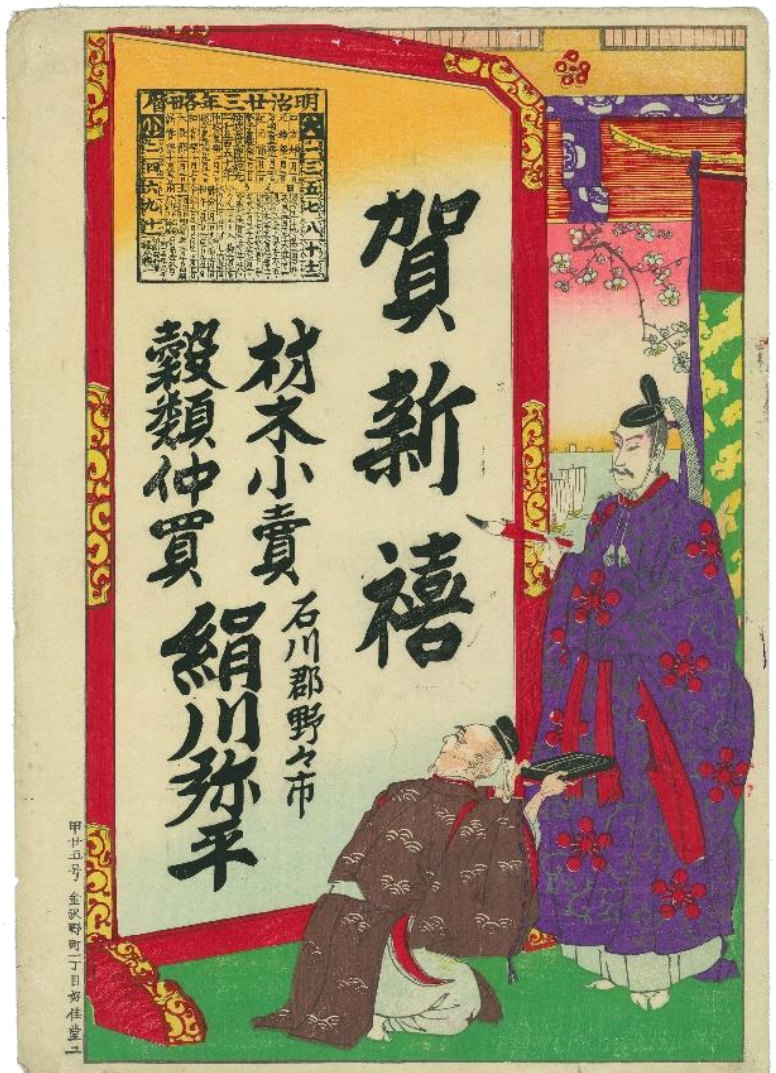


明治時代の野々市村のなりわい

江戸時代に宿場として町並みが形成されていた野々市は、明治時代になってからも様々な商店が軒を連ねました。

明治時代に政府が^{へんさん}編纂した『^{こうこくちし}皇国地誌』には村ごとの兼業・専業の職種ごとの戸数が記録されており、それによると明治初年(1868)の野々市村の専業であった戸数は、^{だいく}大工職・^{こびき}木挽職・^{さかん}左官職などの建築に関わる仕事が多くなっています。

農業と兼業していた家は、^{あらもの}荒物(桶などの雑貨)屋、古材木商、^{ざっこく}雑穀商等、商売を兼ねている家が多く、明治時代の野々市は様々な職種の商店でにぎわっていました。



「材木小売雑穀仲買 絹川弥平の引札」(個人所蔵)
正月のめでたい言葉「賀新禧」と書かれています。
明治23年(1890)の暦が刷られています。